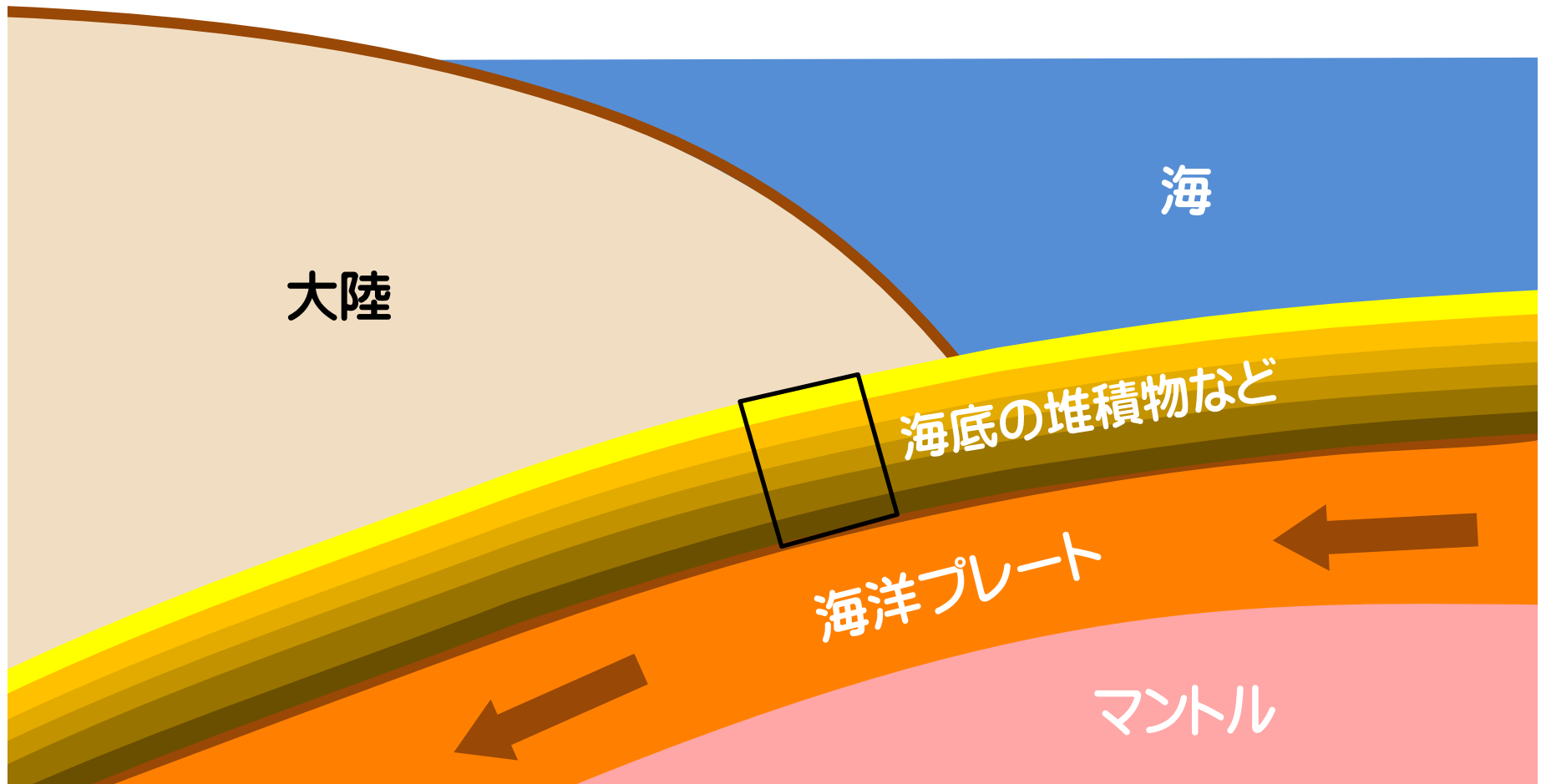


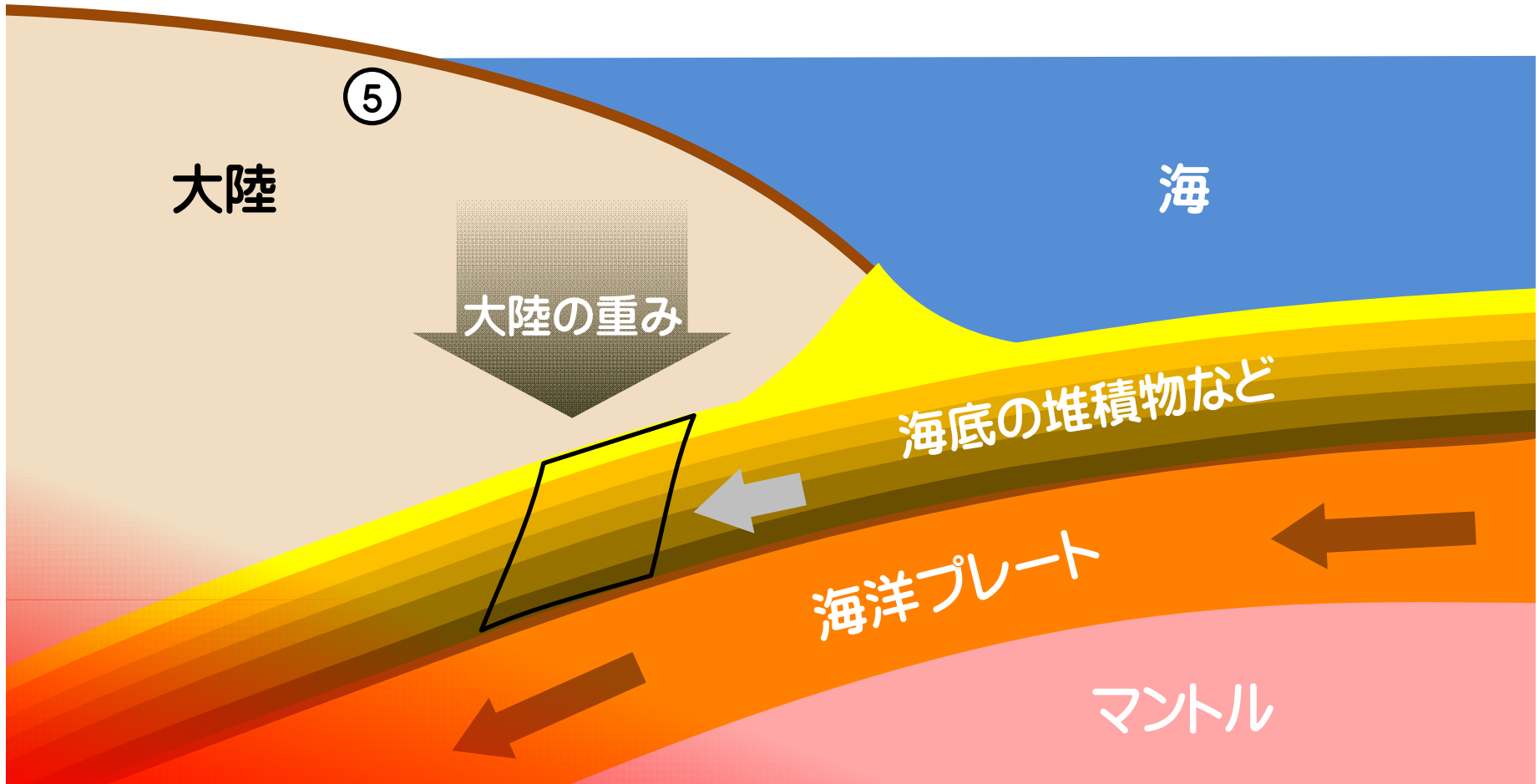
No.1

長瀬・岩畳の成り立ち（結晶片岩）

海底の堆積物などが海洋プレートによって大陸プレートの下に引き込まれていく

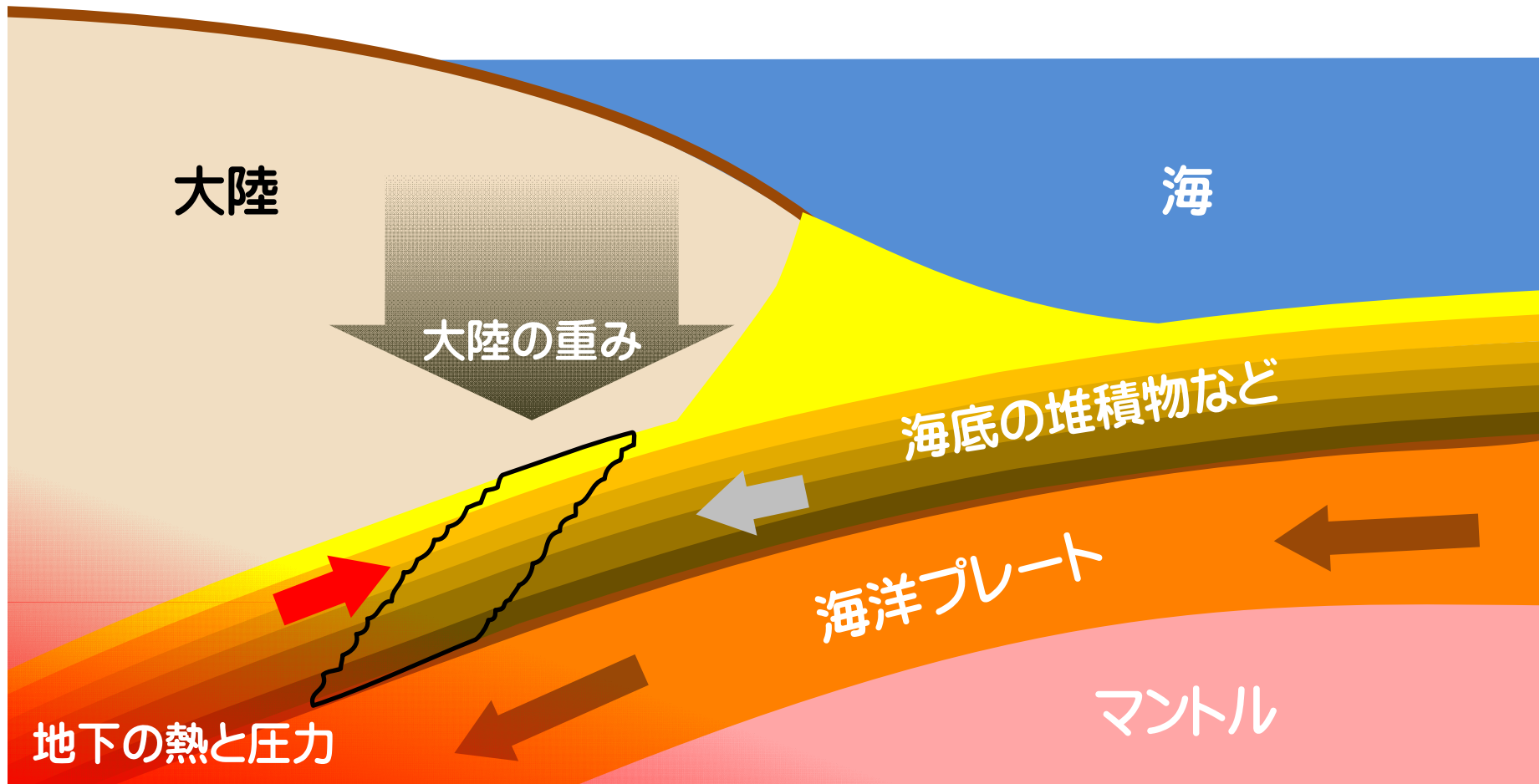


大陸の重さによる圧力とプレートの動きによって堆積層がずれていく。



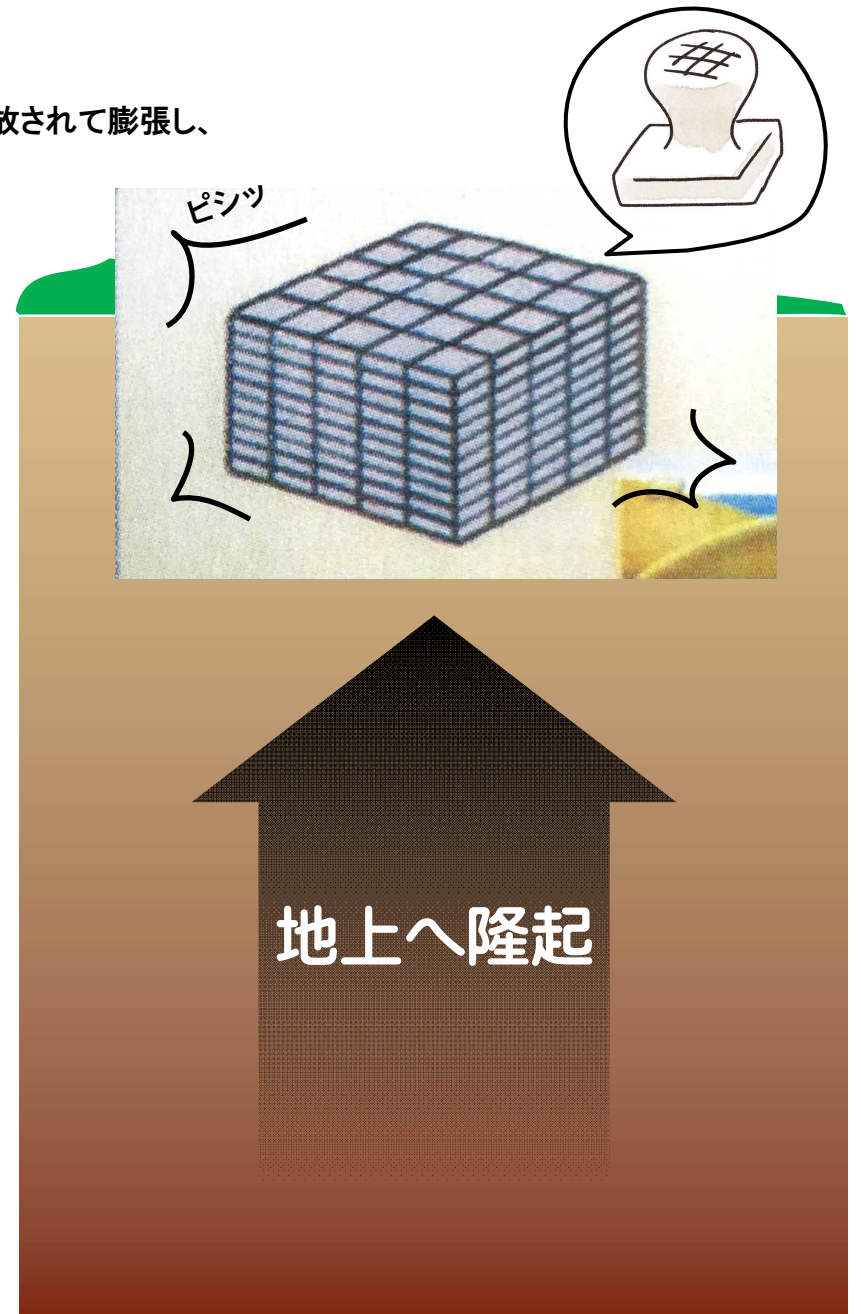
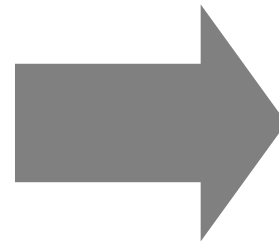
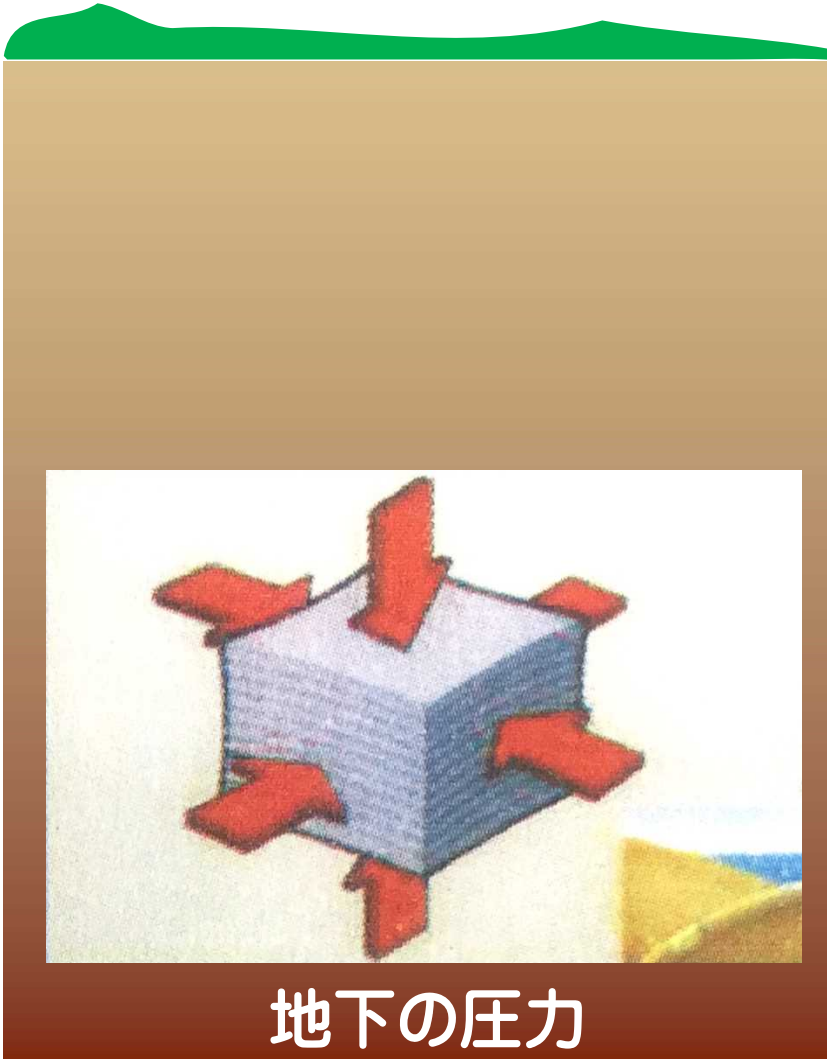
No.3

地下 20~30kmにおける熱と圧力によって変化(変成)を起こしながら、ミルフィーユ状の層となる。(片理)



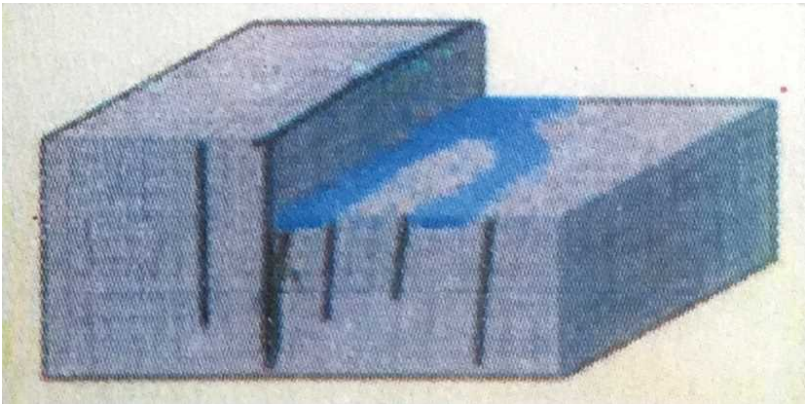
No.3

地下深くの高圧条件下にあった岩石層が、隆起によって地上に露出し、高い圧力から解放されて膨張し、垂直方向にひび割れがおこる。(節理)

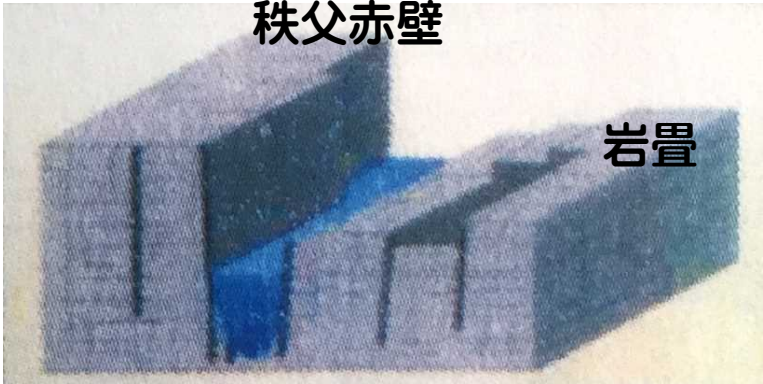
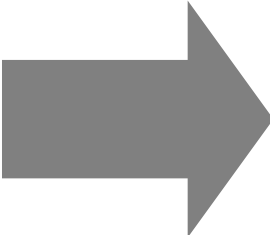


No.4

地上では荒川によって、水平方向の層(片理)と、垂直方向の割れ目(節理)に沿って浸食され、岩畳が形成される。
岩畳の対岸は、断層によって岩石が砕かれた脆い層(破碎帯)が浸食を受けて荒川の本流となり、残った岩壁が秩父赤壁と呼ばれるようになった。



↑ 断層破碎帯



秩父赤壁

岩畳